

# 横浜市立南戸塚小学校 令和3年度 学力向上アクションプラン

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
共に学び、たくましく生きる、心豊かなナントツの子	<心身ともにたくましく生きる力> <自分づくりに関する力> <問題発見・解決能力>

### (2) 中期取組目標

中期取組目標
○温かな雰囲気と豊かな教育環境の中で、子どもたちが伸び伸びと活躍できる学校づくりに努めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団の中で一人ひとりが役割を担うことで「自己有用感」を醸成し、積極性を高めていきます。</li> <li>・ 教師力・授業力の育成により、子どもたちの学習意欲と学力向上を図ります。</li> <li>・ 参加・参画型の地域協働教育の充実を図ります。</li> <li>・ 環境美化や安全確保に努め、教育環境の充実を図ります。</li> </ul>

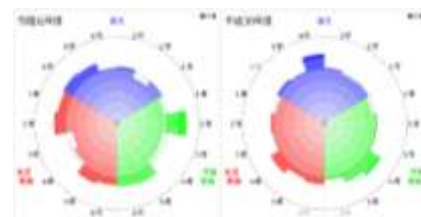
### (3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①コミュニケーション能力の向上を図ることにより、主体的・対話的で深い学びを目指します。 ②誰もが安心して授業に臨める学級集団づくりを進めることに加え、体験的な学習を重視し、個に応じた課題に生き生きと取り組めるようにします。
担当	深い学び部会

## 2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態

### (1) 学力の概要と要因

・全体的には各教科、各学年において、正答率は概ね横浜市の平均的な学力であり、3～6年生では正答率が高かった。学力面では一定の成果を上げていることが分かる。しかし、学年ごとに成果と課題が異なることから、各学年で綿密な指導計画が必要である。学校全体として、コミュニケーション能力の向上を柱に、①児童自らが課題を見つけ解決できる、②自分の考えを伝えたり、友達の考えを理解したりする、③わかる・できるから自分の成長を実感できる学習を大切に日々の学習指導に取り組んでいきたい。



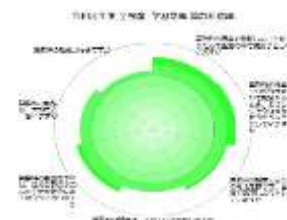
### (2) 学力層を経年変化で捉えた分析

・6年生の算数を例にとって学力層を経年で捉えたときに、どの年度においても、学力層A・学力層Bの児童は横浜市の結果を上回っている。しかし、高学年になると学力層Aの割合が減少傾向にあるので、少人数指導を取り入れ、個に応じたキメの細かい指導を進めるとともに、家庭と連携して学習習慣の定着を図っていくようにしている。



### (3) 学習意識・生活意識と学力層とのクロス集計による分析

・全児童の算数における学習意識では、「算数の勉強をすれば、自分自身のふだんの生活や社会に出て役立つと思いますか。」「算数科の授業で勉強したことをふだんの生活の中で使おうとしていますか。」などの項目については、A～Dのどの学力層においても意識が高いことが分かる。学力には関係なく学習意識が高く保たれているのは南戸塚小の児童の良さである。今後子どもたちにとって必要感や切実感のある学習課題を設定することを意識して、個々の教員が授業づくりをしていくようにしていきたい。



### 3 令和3年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	◆基本的な生活習慣をつくる態度 ◆自分なりのイメージをもったり 自立的に考える力 ◆相手の思いを受けとめて聞く力	○一人ひとりの個性を大事にし、学習の基礎・基本を身に付け、自ら進んで関わっていけるような活動を多く取り入れる。 ○授業時のつぶやきや気付きを看取り、それを価値づけることで、自信をもって自分の思いや考えをもてるようにする。	○各教科において、操作活動や体験的な活動を多く取り入れる。 ○教師の意図的な発問や、本時の流れが分かる板書を意識して行う。 ○詳しく知りたいこと、分からないことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言語で表したりしながら対話的に行う。
2年		○相手の思いを受け止めるために、主体的に活動できる場面を取り入れる。様々な活動に見通しをもてるよう学習計画をたてていく。 ○自分が経験したことや考えたことを発表したり文章に表したりする表現活動を大切に、話し合う場面を取り入れ、考えを交流し合えるようにする。	○学習全体において、表現活動を引き続き行う。学習形態では、ペアでの話し合いからグループでの話し合いへの流れを意識的に行う。 ○報告する文章や説明する文章を書く活動を身に付け、話し合いを子どもたち自身で行えるようにする。
3年	◆他者を理解する態度・自己を理解する力 ◆思いや考えを表現する力 ◆思考するための言葉の力	○地域の活動に関わる場を設定することによって、興味や疑問をもち、友達と協働しながら追求していくことができるようにする。 ○基礎・基本的な知識を身につけるとともに、それらを体験・活用して、自分の思いや考えたことを自分の言葉でまとめ相手に分かりやすく伝える学習を取り入れていく。 ○算数で少人数指導を行う。	○ペア・グループ・全体で共有する場を設け、友達の考えや良さに気付き、自分の考えに取り入れられるようにする。 ○学習したことを日常生活と結び付けて考える学習機会を設け、学習したことと日常生活とを比較しながら経験を積み重ねる。 ○算数で少人数指導を行う。
4年		○自分の思いや考えを言葉で表現するとともに、伝え合う喜びを実感できる学習教材や授業展開を工夫する。 ○自分と他者の共通点や相違点を意識できる活動を行い、自分の考えを上手に他者に伝えることができるという自信につなげられるようにする。 ○算数で少人数指導を行う。	○自分の考えを言葉や図、絵で表したり、ペアやグループで伝え合ったりする学習機会を設け、自分の考えを確認したり、友達の考えを知ったりし、より良い考えに気付くようにする。 ○学習事項を自分ごととして課題を捉え、自ら主体的に学習ができるようにする。 ○算数で少人数指導を行う。
5年	◆児童が主体的に学習に取り組もうとする力	○自分で判断し、進んで行動し、お互いに助け合いながら、学び合うことができるようにする。 ○どの教科等の学習でも、計画的に振り返りの時間を設定し、これまでの自分の成長や課題を自らの目で捉えられるようにする。 ○算数で少人数指導を行う。	○相手の話を一般化したり、自分の経験を加味したり広げたりしながら話し合えるようにする。 ○学習のめあてを理解し、自分のめあてをたてるために、本時や単元終わりの学習の振り返りを行えるようにする。 ○算数で少人数指導を行う。
6年	◆見通しをもち、自ら考えて活動する力 ◆自らを振り返れる力。	○他者の考えを理解し、異なる視点を交えながら話し合い、互いの意見を関連付けたり、多面的に考えたりする学習機会を意図的・計画的に行う。 ○自分と他者との関係を捉えて、目的に応じて適切に表現したり伝えるたりすることができるようにする。 ○算数で少人数指導を行う。	○ノートに表現したり、ペアやグループで自分の考えを伝えたりする時間を設ける。 ○学習以外の様々な場面でも、自分の言葉で相手に伝えられる場面を設ける。 ○算数で少人数指導を行う。
個別支援学級	◆身近な事象に積極的に関わる力 ◆思いや考えを表現する力	○学習支援計画や指導計画に基づき、個に応じたコミュニケーションスキルの獲得と向上を目指す。 ○発達段階に応じて、個々が表現したことに共感できるグルーピングを行う。 ○実体験や操作的な活動を取り入れ、興味・関心を高められるようにする。	☆交流学年の取組を参考にし、子どもや保護者のノーズに応じて、必要な取組を行えるようにする。 ○自分の思いや考えを、相手に伝えられる活動を数多く取り入れる。 ○発達段階に応じた分かりやすい情報を発信するなど言語環境を整える。